

1. 学校評価の観点

今年度の学校教育目標達成に向けた学校経営方針と重点目標をもとに、評価の観点を次の5つとした。

- (1) 専門職として、教師力・学校力の向上に努める教職員
- (2) 現職教育を核にした実践研究への取組
- (3) 特色ある学校づくりへの取組
- (4) 危機管理を意識した安全教育への取組
- (5) 家庭や地域との連携の強化

2. 評価の方法

・アンケートの対象者

I 全校児童 計368名

II 本校保護者 計290名

III 地域の方々（擁護会役員・学校評議員・交通指導員・民生児童委員代表）18名

・アンケート方法 QRコードを読み取りメールにて回答

・アンケート実施時期 令和7年12月～令和8年1月

3. アンケートの集計結果

(1) 「授業や学校生活についてのアンケート（児童対象）」について

A「十分達成している」、B「おおむね達成している」と回答した人数を合わせた割合（以下、達成率と表記する）が90%を超えた設問は18問中10問であった。中でも、次の6問は達成率が93%を超えた。

設問⑥	授業中は先生や友達の話をよく聞き一生懸命に学習していると思いますか	93%
設問⑪	須西っ子のルールや週のめあてを守っていると思いますか	93%
設問⑫	当番活動や係活動、委員会活動にしっかりと取り組んでいると思いますか	96%
設問⑬	交通ルールを守り、安全に登下校できていると思いますか	95%
設問⑭	避難訓練に真剣に取り組むことができたと思いますか	97%
設問⑮	児童みんなが居心地のよい学校であると思いますか	95%

一方で、達成率が60%に満たなかったのは、次の設問である。

設問④	進んで読書をしていると思いますか	59%
-----	------------------	-----

読書の習慣づけに対しては、『須西っ子タイム』での「読み聞かせ」や読書活動を行っており、昨年度より「進んで読書をしている」と答えた割合は4%増加したものの、他の設問に比べて「思わない」と回答した割合が14%と多く、読書嫌いの児童が一定数いる。少しでも本に興味を持ってもらえるように図書委員会のさらなる活性化を図りたい。

(2) 「保護者による学校評価アンケート」について

18問中15問が達成率80%以上であった。中でも達成率が90%を超えたのは、次の8問である。

設問②	お子さんは、授業が楽しいと言っていますか	90%
設問⑤	お子さんは、学校を居心地のよい場所だと感じていると思いますか	93%
設問⑨	お子さんは、交通ルールを守り、安全に登下校していると思いますか	93%
設問⑫	お子さんは、けがや病気に気を付けて生活していると思いますか	93%
設問⑬	学校の施設は、安心・安全な状況だと思えますか	90%
設問⑮	学校は保護者や地域の方の協力を得て教育活動を行っていると思いますか	90%
設問⑯	学校は、学校の様子を便り等を用いて伝えていると思いますか	93%
設問⑳	お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしていますか	93%

昨年度、達成率が75%に満たなかった設問⑧については、達成率が上がった。

設問⑧	お子さんは、先生や友だち、家の人や近所の人にあいさつをしていると思いますか	80%
-----	---------------------------------------	-----

今年度、達成率が75%に満たなかったのは次の1問である。

設問⑦ 学校は、いじめ防止といじめへの対応を適切に行っていると思いますか 73%
いじめについては「いじめ防止基本方針」に準じて全校体制で対応にあたっている。設問⑦では「わからない」と回答した保護者が22%であった。ホームページにも掲載しているが、PTA総会等、保護者が来校する機会を活用し、より明確に周知し、安心感の醸成に努めていきたい。

(3) 地域の方々からの回答について

ア 評価項目と設問内容

設問を10項目に絞り、子どもたちの様子や学校の取組についての評価を行った。

イ 集計結果 回答数 16名

子どもたちの様子に関わる設問については、「十分達成している」「おおむね達成している」という回答が7割を超えており、高い評価を得た。「あまり達成していない」という回答は昨年度よりも減少したが、「わからない」という回答は増加した。

(4) 教職員による自己評価について

ア 評価項目と設問内容

各学級ごとの「児童アンケート」「保護者アンケート」の結果を踏まえ、教職員それぞれが学校教育活動についての評価を行った。

イ 集計結果 回答数 19名

ほぼすべての項目について、達成率は7割を超えた。「交通ルールを守って登校できているか」という項目については、昨年度、児童・保護者と地域の方々、教職員で捉え方に差が見られたが、今年度は地域の方々、教職員ともに達成率が上がった。今後も引き続き交通ルールの遵守、マナーの向上に努めていきたい。

4. 成果と課題

観点①「専門職として、教師力・学校力の向上に努める教職員」について

若手、ベテランともに、教職員が一丸となって学校教育目標の達成に向けて努力することができたと考える。学校運営に関しては、特別な支援を要する児童に対して、教職員間で情報共有を密にし、スクールサポーターやスクールカウンセラーを活用し支援することができた。また、学習指導に関しては、楽しい、わかる授業づくりを目指して取り組んでいる。一人一授業の研究授業を実施し、全体で研究協議会を行い、授業力向上に努めている。しかし、設問⑳「各自の研修による指導力向上」や設問㉑「教育活動の評価・次年度への活用」、設問㉒「働き方改革への取組」については、5名の教職員が「あまり達成できていない」「不十分である」と回答しており、多忙感の中で自己研鑽や計画的な改善時間を確保することが依然として課題となっている。今後は、多忙化解消に向けて、日課の見直しを行い、研究協議会の時間をしっかりと確保するなど、勤務時間内での効率的な研修体制の構築を目指したい。

観点②現職教育を核にした実践研究への取組について

昨年度まで「集団の一員としてよりよい生活を築こう」をテーマに温かい人間関係づくりに取り組んできた。異学年交流「くすのき活動」を取り入れ、他学年の友達のよさに気づいたり、思いやりの気持ちをもって接したりすることで、温かい人間関係を築けるよう取り組んだ。今年度は、これまで育んできた温かい人間関係を学習活動につなげられれば、学びが広がり、今まで以上にともに学び合う姿が増えると考え「自分の考えをもち、ともに学び合う児童の育成」をテーマに研究を行った。1年目は「読み取ること」に対する「授業づくりの工夫」を柱に実践を進めた結果、児童の「読み取ること」への苦手意識が減少したという成果が見られた。設問①「楽しい・わかる授業づくり」については、ほとんどの教職員が高い達成感をもっているが、設問③「現職教育の研究課題を意識した工夫」については4名の教職員が改善の余地があると回答している。次年度は「語彙を増やし自分の考えをよりの確に伝えられるようになること」を目指し研究を推進していくので、個々の実践を研究テーマへより具体的に結びつけ、指導の深化を図りたい。

観点③特色ある学校づくりへの取組について

蟹江町観光交流センター「祭人」の見学や須成祭体験など、特色ある学校づくりの中心として本校で行ってきた活動を、児童に体験させることができた。須成祭体験では、地元の敬神会の方々を講師にお招きし、祭りで使用する飾り花を作る体験を行った。クラブ活動では、伝統芸能として、須成鼓笛保存会の方をお招きし、太鼓の練習を行っている。一方で、地域の方からは「地域行事への参加の後押し」を期待する声も寄せられている。「祭人」見学や須成祭体験、クラブ活動の和太鼓など、これらの体験活動を入口として、児童が郷土への愛着を深め、自発的に地域行事へ参画できるよう継続的な声掛けと啓発を行っていききたい。

観点④危機管理を意識した安全教育への取組について

学校生活での大きなケガや事故は少なかった。教職員による児童への指導がしっかりとされた結果であると考えられる。災害を想定した避難訓練では、まず、4月当初に教室からの避難経路の確認を行った。9月の避難訓練では、緊急地震速報を聞いたときの対応の仕方の事前学習を行い、その後実践訓練を行った。12月には、掃除中など担任が不在の場合の避難を想定し、訓練を行った。避難訓練についての児童の達成率は97%と高く、真摯な取組姿勢が定着している。児童が、より主体的に学ぶことができる安全教育に今後も取り組んでいきたい。

観点⑤家庭や地域との連携の強化について

全ての教職員が、放課後の限られた時間を使い、家庭訪問や電話連絡などにより、保護者との意思疎通を心がけている。また、学校だより・学年通信・ホームページでの情報発信にも積極的に取り組んだ。昨年度同様、企業や地域人材を活用した出前授業を実施することができた。今年度は、地域人材による「なわとび教室」の出前授業も実施した。保護者のアンケートの設問⑩「情報発信」への高評価（93%）は、これらの継続的な取組の成果といえる。保護者や地域との連携について、教職員の意識をさらに高めていきたい。